



平尾 節世

帰郷希望者

状況把握とデータ化を

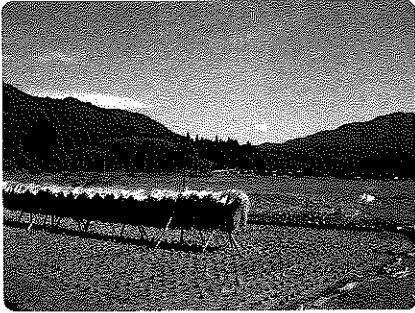
町長 / プライバシー問題等もあり実施は困難

問 智頭町の人口は、

10年で1580人減少している。その対策として町有地無償提供や空家を再生して移住者に提供するなどの施策で、成果が現れつつあることは承知しているが、それと共に町内出身者の「できれば智頭に帰りたい」との声に対応する施策も必要だと思ふ。町内出身者の帰郷希望の状況把握や受け入れ情報の提供はされているのか。

答 町長 帰郷希望の

状況把握はプライバシーの問題等もあり、実際の問題等も考えている。町内外に移住施策を積極的に情報発信するので住民の皆さんが活用していただきたい。



山紫水明のふるさと

問 町内の状況を発信

するだけでは、働きかけの弱さを感じる。小さな町だからこそできる地域のつながりで、担当課だけではなく全職員で、実家を通してアンケートをお願いしデータ化した上で、コーデイネーターを配置して地元企業との橋渡しをしてはどうか。Uターン者が多くないらば、高齢社会の対応や農林業の活性化にもつながり相乗効果も多いと思ふが。

答 町長 セットして

どうぞということとは不可能と思ふ。自分は帰ってこれをやりたい、という人には町をあげて応援する。

介護支援

ボランティア制度の導入を

町長 / 現在は考えていない

問 介護支援ボランテ

ィア制度は、介護支援に関わるボランティアをした高齢者に対し、換金可能なポイントが与えられる制度であり、介護保険料を実質的に軽減し地域の活性化や住民のつながりを図る制度と言われている。この制度を導入する考えはないか。

答 町長 本町にはシ

ルバー人材センターがあり、元気な高齢者が152人会員に登録している。町として710万円の補助をしており、高齢者の人たちに働いてもらっている。現在は介護支援ボランティア制度の導入は考えていないが、検討課題としていきたい。



支えあえる社会に